

令和2年度（令和元年度対象）

逗子市教育委員会 点検・評価に関する報告書

逗子市教育委員会

【 目 次 】

○はじめに	
1 趣旨	5
2 点検・評価の対象	5
3 点検及び評価の方法	5
4 評価者	5
○令和元年度の教育委員会の活動状況	
1 教育長及び教育委員	11
2 教育委員会開催状況	11
3 教育委員会審議案件	11
4 教育委員 主な活動状況	18
○点検・評価	
1 文化を新たに創造するまち 文化スポーツ課	25
2 スポーツを楽しむまち 文化スポーツ課	33
3 学校教育の充実したまち 学校教育課 療育教育総合センター	41
4 子どもも大人も共につながり成長していくまち 社会教育課 図書館	53
5 障がい者が安心して自分らしく暮らし続けるまち 療育教育総合センター	73
6 誰もが心豊かに子育てできるまち 子育て支援課 保育課	81
7 教育委員会への意見及び助言	93

〇はじめに

1 趣 旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)」において、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないと規定されています。

本報告書は、この法律の規定に基づき、委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育に関する学識経験者の意見及び助言をいただき、点検及び評価を実施し、結果を報告するものです。

本市の特色ある教育施策を広く市民の皆さまにお知らせすることにより、教育現場における課題や取り組みの方向性を明らかにし、より一層効果的な教育行政の推進を図り、逗子のよりよい教育施策の実現に資するよう努めてまいります。

2 点検・評価の対象

教育委員会の権限に属する事務及び教育委員会が補助執行により行う事務について、逗子市総合計画実施計画(2015~2022)の各取り組みの方向に基づき設定した目標から点検及び評価の対象とします。

3 点検及び評価の方法

点検及び評価に当たっては、それぞれの目標に対する取り組み概要、自己評価、外部有識者の意見及び今後の課題と取り組みの方向性を記載したシートを作成しました。

そして、点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する者の意見、助言を記載しています。

4 評価者

次の方々から、ご意見及び助言をいただきました。

佐藤 晴雄氏 (日本大学文理学部教授)

寶川 雅子氏 (鎌倉女子大学短期大学部准教授)

【参考】

○地方自治法（抜粋）

（教育委員会の職務権限等）

第百八十条の八 教育委員会は、別に法律の定めるところにより、学校その他教育機関を管理し、学校の組織編制、教育課程、教科書その他の教材の取扱い及び教育職員の身分取扱いに関する事務を行い、並びに社会教育その他教育、学術及び文化に関する事務を管理し及びこれを執行する。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育委員会の職務権限）

第二条 教育委員会は、当該地方公共団体が処理する教育に関する事務で、次に掲げるものを管理し、及び執行する。

- 一 教育委員会の所管に属する第三十条に規定する学校その他の教育機関（以下「学校その他の教育機関」という。）の設置、管理及び廃止に関すること。
- 二 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の用に供する財産（以下「教育財産」という。）の管理に関すること。
- 三 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- 四 学齢生徒及び学齢児童の就学並びに生徒、児童及び幼児の入学、転学及び退学に関すること。
- 五 教育委員会の所管に属する学校の組織編制、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導に関すること。
- 六 教科書その他の教材の取扱いに関すること。
- 七 校舎その他の施設及び教員その他の設備の整備に関すること。
- 八 校長、教員その他の教育関係職員の研修に関すること。
- 九 校長、教員その他の教育関係職員並びに生徒、児童及び幼児の保健、安全、厚生及び福利に関すること。
- 十 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の環境衛生に関すること。
- 十一 学校給食に関すること。
- 十二 青少年教育、女性教育及び公民館の事業その他社会教育に関すること。

- 十三 スポーツに関すること。
- 十四 文化財の保護に関すること。
- 十五 ユネスコ活動に関すること。
- 十六 教育に関する法人に関すること。
- 十七 教育に係る調査及び基幹統計その他の統計に関すること。
- 十八 所掌事務に係る広報及び所掌事務に係る教育行政に関する相談に関する
こと。
- 十九 前各号に掲げるもののほか、当該地方公共団体の区域内における教育に
関する事務に関すること。

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

○令和元年度の教育 委員会の活動状況

令和元年度の教育委員会の活動状況

1 教育長及び教育委員

() 内は任期

教 育 長	村松 雅 (平成 29.4.1～令和 2.3.31)
委 員 (教育長職務代理者)	横地 みどり (平成 23.6.26～令和元.6.25) (教育長職務代理者 平成 29.12.1～令和元.6.25)
	塚越 暁 (平成 27.11.13～令和元.11.12) (教育長職務代理者 令和元.6.26～令和元.11.12)
	村上 朝鼓 (平成 28.12.17～令和 2.12.16) (教育長職務代理者 令和元.11.13～)
委 員	星山 麻木 (平成 29.12.1～令和 3.11.30)
委 員	若林 順子 (令和元.6.26～令和 5.6.25)
委 員	高橋 康 (令和元.12.3～令和 5.12.2)

※ 平成 29 年度からは、平成 27 年 4 月 1 日に施行された、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律に基づく教育長が任命されました。

2 教育委員会開催状況 (令和元年度実績)

定例会 12 回開催

3 教育委員会審議案件

4月定例会	平成 31 年 4 月 17 日
日程第 1	教育長報告事項について
日程第 2	報告第 8 号 逗子市立中学校に係る部活動の方針の策定について
日程第 3	報告第 9 号 教育委員会職員の人事について
日程第 4	報告第 10 号 平成 31 年度逗子市奨学金受給者の給付決定について
【非公開】	

<p>日程第5 議案第4号 平成32年度使用逗子市立小・中学校教科用図書採択方針について</p> <p>日程第6 議案第5号 平成31年度工事計画の策定について</p> <p>日程第7 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の近況について ・保育所・放課後児童クラブの入所状況について
<p>5月定例会 令和元年5月30日</p> <p>日程第1 2月定例会会議録の承認について</p> <p>日程第2 3月定例会会議録の承認について</p> <p>日程第3 教育長報告事項について</p> <p>日程第4 報告第11号 教育委員会職員の人事について</p> <p>日程第5 報告第12号 事務の補助執行について</p> <p>日程第6 報告第13号 議案（平成31年度逗子市一般会計補正予算（第2号））作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について</p> <p>日程第7 報告第14号 逗子市スポーツ推進審議会委員の任命について</p> <p>日程第8 報告第15号 逗子市教科用図書採択検討委員会委員の任命について</p> <p>日程第9 議案第6号 逗子市立図書館協議会委員の任命について</p> <p>日程第10 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の近況について ・いじめの認知件数とその対応について
<p>6月定例会 令和元年6月20日</p> <p>日程第1 4月定例会会議録の承認について</p> <p>日程第2 教育長報告事項について</p>

日程第3 報告第16号 議案（令和元年度逗子市一般会計補正予算（第4号））
作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答
について

日程第4 議案第7号 教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点
検及び評価の実施方針について

日程第5 その他

- ・各校の近況について
- ・学校閉庁日について
- ・不登校及びいじめについて
- ・保育所等入所児童の状況について
- ・屋外市営プール利用券について

7月定例会 令和元年7月18日

日程第1 5月定例会会議録の承認について

日程第2 教育長報告事項について

日程第3 報告17号 令和元年度逗子市奨学金受給者の追加給付決定について
【非公開】

日程第4 報告18号 令和元年度工事計画の変更について

日程第5 その他

- ・スペインセーリングチームとの交流会について
- ・各校の近況について

8月定例会 令和元年8月8日

日程第1 教育長報告事項について

日程第2 報告第19号 逗子市立小・中学校給食運営検討委員会規程の制定
について

日程第3 報告第20号 教育委員会職員の人事について

日程第4 議案第8号 令和2年度使用小学校教科用図書の採択について

日程第5 その他

- ・各校の近況について

9月定例会 令和元年9月17日

日程第1 6月定例会会議録の承認について

日程第2 7月定例会会議録の承認について

日程第3 教育長報告事項について

日程第4 報告第21号 議案（令和元年度逗子市一般会計補正予算（第5号））

作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する

回答について

日程第5 報告第22号 教育委員会職員の人事について

日程第6 その他

- ・各校の近況について
- ・都市公園条例の改正について（郷土資料館の廃止について）
- ・図書館の開館時間の拡大、ブックポストの設置及び特別整理期間について
- ・逗子アートフェスティバル2019について
- ・スポーツの祭典2019について

10月定例会 令和元年10月24日

日程第1 教育長報告事項について

日程第2 報告第23号 令和元年度逗子市奨学金受給者の追加給付決定について【非公開】

日程第3 報告第24号 教育委員会職員の人事について

日程第4 その他

- ・各校の近況について
- ・幼児教育・保育の無償化について

11月定例会 令和元年11月12日

日程第1 教育長報告事項について

日程第2 議案第9号 逗子市社会教育委員の委嘱について

日程第3 議案第10号 逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書について

日程第4 その他

- ・各校の近況について

12月定例会 令和元年12月9日

日程第1 8月定例会会議録の承認について

日程第2 9月定例会会議録の承認について

日程第3 教育長報告事項について

日程第4 報告第25号 議案（専決処分の承認について（令和元年度逗子市一般会計補正予算（第7号））及び令和元年度逗子市一般会計補正予算（第8号））作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について

日程第5 報告第26号 教育委員会職員の人事について

日程第6 その他

- ・各校の近況について
- ・冬季休業中の学校閉庁日（試行）について
- ・都市公園条例の改正について（郷土資料館の廃止について）
- ・第67回逗子市内一周駅伝競走大会について
- ・二十歳を祝う成人の集いについて

1月定例会 令和2年1月28日

日程第1 10月定例会会議録の承認について

日程第2 11月定例会会議録の承認について

日程第3 教育長報告事項について

日程第4 報告第1号 教育委員会職員の人事について

日程第5 その他

- ・逗子市都市公園条例の一部改正（郷土資料館の廃止）に関するパブリックコメントの実施結果について
- ・逗子市立図書館条例施行規則の一部改正に関するパブリックコメントの実施結果について
- ・各校の近況について
- ・小学校給食費の改定について
- ・平成30年度 神奈川県児童・生徒の問題行動等調査結果（公立学校）における逗子市の調査結果について
- ・第67回逗子市内一周駅伝競走大会の結果について
- ・二十歳を祝う成人の集いについて

2月定例会 令和2年2月19日

日程第1 12月定例会会議録の承認について

日程第2 教育長報告事項について

日程第3 報告第2号 議案（専決処分の承認について（令和元年度逗子市一般会計補正予算（第9号））及び令和元年度逗子市一般会計補正予算（第10号））作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について

日程第4 報告第3号 議案（令和2年度逗子市一般会計予算）作成に関する逗

子市教育委員会の意見聴取に対する回答について

日程第5 報告第4号 議案（逗子市常勤特別職職員の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について、逗子市都市公園条例の一部を改正する条例について）作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について

日程第6 その他

- ・逗子市都市公園条例の一部改正（郷土資料館の廃止）に関するパブリックコメントの実施結果について
- ・各校の近況について

3月定例会 令和2年3月23日

日程第1 1月定例会会議録の承認について

日程第2 教育長報告事項について

日程第3 報告第5号 県費負担教職員の任免内申について【非公開】

日程第4 議案第1号 逗子市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について

日程第5 議案第2号 逗子市教育委員会事務分掌規則の一部を改正する規則について

日程第6 議案第3号 逗子市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する規程について

日程第7 議案第4号 事務の委任及び補助執行について

日程第8 議案第5号 教育財産の用途廃止について

日程第9 議案第6号 逗子市立図書館条例施行規則の一部を改正する規則について

日程第10 議案第7号 逗子市文化財保護委員会委員の任命について

日程第11 その他

- ・各校の近況について・令和2年度東京2020オリンピック・パラリンピック推進事業概要について

4 教育委員 主な活動状況

	教育委員会会議	その他の主な活動
4月	定例会（4/17）	勉強会（4/17）
5月	定例会（5/30）	勉強会（5/30） 小学校運動会（5/25）
6月	定例会（6/20）	小学校運動会（6/1） 勉強会（6/20）
7月	定例会（7/18）	勉強会（7/18）
8月	定例会（8/8）	勉強会（8/8）
9月	定例会（9/17）	勉強会（9/17） 中学校体育祭（9/21）
10月	定例会（10/24）	総合教育会議（10/24） 勉強会（10/24） 小学校運動会（10/20） 学校訪問（10/1、4、18、25、29、30、31）
11月	定例会（11/12）	勉強会（11/12）
12月	定例会（12/9）	勉強会（12/9）
1月	定例会（1/28）	市内一周駅伝競走大会（1/12） 学校訪問（1/24、27、29、31） 勉強会（1/28）

2月	定例会 (2/19)	学校訪問(2/4、12、14) 勉強会 (2/19)
3月	定例会 (3/23)	中学校卒業式 (3/11) 勉強会 (3/23) 小学校卒業式 (3/19)

○ 点検・評価

点検及び評価の対象

取り組みの方向		目標（2022年度（令和4年度））		所管課
1	文化を新たに創造するまち	1	逗子アートフェスティバルの参加企画数が30 企画になっており、質の向上が図られている。	文化スポーツ課
		2	文化プラザホールにおいて、質の高い自主文化事業が実施され、ホール自主事業の入場者アンケートの満足度が90 パーセントを超えている。	文化スポーツ課
		3	ホール貸館利用者アンケートによる満足度で「良い」が75 パーセントになっている。	文化スポーツ課
		4	文化プラザホールの入場者（観客）が年10 万人以上になっている。	文化スポーツ課
2	スポーツを楽しむまち	1	逗子市スポーツの祭典への参加者が延べ5,000人になっている。	文化スポーツ課
		2	「（仮称）スポーツに関する実態調査」において、成人の週1 回以上のスポーツ実施率が3人に2人（66.7 パーセント）となる。	文化スポーツ課
		3	総合型地域スポーツクラブ（うみかぜクラブ）の会員登録数が1,000 件になっている。	文化スポーツ課
3	学校教育の充実したまち	1	「お互いを認め合える学級づくり」が、すべての学級で行われている。	学校教育課
		2	すべての教員が「自己チェックリスト」を活用して授業と学級経営についての振り返りを行っている。	学校教育課
		3	個別支援が必要なすべての児童生徒に対し、支援シートが作成され、活用されている。	学校教育課
		4	ICT（情報通信技術）環境を整え、情報機器を活用した授業づくりをすべての教員が児童生徒のニーズに応じて行っている。	学校教育課
4	子どもも大人も共につながり成長していくまち	1	地域課題の解決に向けた人材育成のための講座やイベントが開催されている。	社会教育課
		2	社会教育講座等各種講座において、アンケート調査による、受講者評価が80 点を超えている。	社会教育課
		3	地域で子どもを育てる環境づくりの構築に向けた家庭教育講座が5回開催されている。	社会教育課
		4	市指定文化財の数が増加している。	社会教育課
		5	名越切通、長柄桜山古墳群第1 号墳の整備が完了し、公開活用されている。	社会教育課
		6	文化財収蔵庫が設置され、遺物が適正に保管されている。	社会教育課
		7	図書館において、様々なテーマ設定により年間30回以上の図書の展示を行い、読書の推進を図る。	図書館
5	障がい者が安心して自分らしく暮らし続けるまち	1	（仮称）療育・教育の総合センターで実施する相談及び障害児通所支援を利用したことのある子どもの、市内の18 歳までの子どもに対する割合が9.5 パーセントになっている。	療育教育総合センター
		2	（仮称）療育・教育の総合センターにおいて、障がいのある子ども、発達に心配のある子ども（0歳～18 歳）に対してライフステージに応じた継続的な支援が行われている。	療育教育総合センター
6	誰もが心豊かに子育てできるまち	1	子育てに関するポータルサイトのアクセス数が、2018（平成30）年度の年間アクセス数の20 パーセント増となっている。	子育て支援課
		2	逗子市体験学習施設「スマイル」の主催講座の年間延べ参加者数が2,000 人、年間延べ利用者数が60,000 人になっている。	子育て支援課
		3	「逗子市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査」における子育ての環境や支援の満足度が25 パーセントになっている。	子育て支援課
		4	教育・保育施設等を希望する人すべてが、希望する施設を利用できる。	保育課
		5	ほっとスペースの年間延べ利用者数が26,000 人になっている。	子育て支援課

1 文化を新たに創造するまち

（基本構想の取り組みの方向）

文化芸術は、生活に潤いや刺激を与え、共感や連帯を生み、人の心を豊かにします。さらに、新たな付加価値を生み出すなど、地域社会にとっても多様な可能性を秘めています。

わたしたちは、逗子の伝統文化を継承するとともに、潜在的な文化資源を掘り起こして、地域の文化を市民の手で拓き、互いを高め合い、育むことで、「まちが文化を活かし、文化がまちを活かす」地盤をつくります。そして、逗子の多彩な文化資源と恵まれた自然環境を背景に生まれる、個性的で創造的な文化芸術の力で、文化と自然がつむぐ活力あるまち（地域社会）の発展をめざします。

— 逗子市総合計画（2015～2038）から抜粋 —

評価シート

所管課：文化スポーツ課

目標【2022年度】
逗子アートフェスティバルの参加企画数が30 企画になっており、質の向上が図られている。

令和元年度の取り組み

関係する事業名	文化活動振興事業（逗子アートフェスティバルの充実）
事業内容	<p>目的：文化と自然がつむぐ活力あるまちを実現させる。</p> <p>手段：逗子アートフェスティバルをはじめとする文化振興事業を推進する。また、市民が主体的に実施する文化芸術活動について、後援等により支援する。</p> <p>内容：逗子アートフェスティバル負担金は、財政対策プログラムに基づき、平成 30 年度に引き続き休止し、財政的支援以外の事務局機能や会場提供等を行った。</p>
実績	<p>○逗子アートフェスティバル2019を開催</p> <p>開催期間 10月18日（金）～10月27日（日）</p> <p>来場者数 約6,000人</p> <p>企画数 28企画</p> <p>主な企画 MIRRORBOWLER（招待作品）</p> <p>ぼくたちのうたがきこえますか 2019</p> <p>街の記憶</p> <p>捨てられたもの達の声</p> <p>逗子アートフィルム</p> <p>池子の森の音楽祭 2019</p> <p>シティ・キャンバス プロジェクト</p> <p>みんなでアート</p>
自己評価	<p>企画・運営は平成 30 年度に引き続き、市民有志等による逗子アートネットワーク（ZAN）が行った。メンバーの入れ替わりも見られ、組織の仕組みが構築されてきており、地域文化の担い手の一組織として、地域コミュニティ・文化活動の活性化に寄与している。</p> <p>前年度から継続して、鑑賞だけでなく、作品制作への市民参加、空き店舗の活用、多世代交流、商店街等の協力等、アートを通じた地域コミュニティの活性化を推進した。一</p>

評価シート

	<p>方で、テーマの決定に時間を要し、十分な準備期間が確保できなかったため、広報期間も短く集客に苦慮した。</p>
外部有識者の意見	<p>逗子アートネットワークが、新たなメンバーを加えて継続して主体的に活動していることは、文化活動に携わる市民を増やし、将来的な地域文化の担い手の育成に貢献しており評価できる。一方で、市民からの企画の公募が間に合わなかったこと等、メンバー以外の一般市民への参加と連帯を促す視点が弱いようにも感じられる。</p>
今後の課題と取り組みの方向性	<p>引き続き、市民の主体的な活動を支援するとともに、トリエンナーレ年における予算措置と、それ以外の年も含めた人的支援等を継続していく。</p>

所管課：文化スポーツ課

目標【2022年度】
文化プラザホールにおいて、質の高い自主文化事業が実施され、ホール自主事業の入場者アンケートの満足度が90パーセントを超えている。

令和元年度の取り組み

関係する事業名	文化プラザホール維持管理事業
事業内容	<p>目的：文化プラザホールの適切な管理、運営を行う。</p> <p>手段：ホールを利用する人が快適に過ごすことができるよう、貸館業務を実施するとともに、警備、舞台運営を含めた必要な管理業務を行う。</p> <p>内容：218,328千円（うち指定管理料 215,350千円）</p>
実績	<p>自主文化事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まちづくり事業（参加者アンケート満足度 86.4%） <ul style="list-style-type: none"> ・市立小・中学校へのアウトリーチ活動 13件 ・保育園・高齢者福祉施設へのアウトリーチ活動 2件 ・伝統文化講座 1件（逗子こども落語教室） ○トモイク事業（事業アンケート満足度 86.4%） <ul style="list-style-type: none"> ・市民企画事業 2件 ○社会包摂事業 3件（0才からのコンサート こどもブリッツ、ファミリーミュージカル、ウィークデーマチネ） ○地域資源活用事業（参加者アンケート満足度 82.4%） <ul style="list-style-type: none"> ・若手演奏家シリーズ2回公演ほか 3件 ○鑑賞事業（参加者アンケート満足度 84.9%）8件
自己評価	<p>アンケートにおける満足度はいずれも80%を超えており、高い満足度が得られている。</p> <p>まちづくり事業でのアウトリーチ活動で招いた講師がホールでの鑑賞事業を行う等、事業間で関連性を持たせ、ホール来場につなげている。また、保育園や高齢福祉施設でのアウトリーチの実施等、ホールに来場する機会の無い人に向けても幅広く事業を行っている。</p> <p>社会包摂事業では、小さな子どもと保護者をターゲットに事業を行い、他の来場者を気にせずコンサートやミュージカルを楽しめる機会を提供している。</p>

<p>外部有識者の意見</p>	<p>鑑賞型事業のテーマに沿った各種講座やワークショップ等のまちづくり事業を実施したことは、文化芸術に接する機会の拡充につながるものとして高く評価できる。特に、新規の鑑賞型事業を行う際は、事前の講座やワークショップ等を行ったり、広報のあり方を工夫する等して、市民の関心を高めるよう努めてもらいたい。</p> <p>他の施設との連携により、保育園や高齢福祉施設でのアウトリーチを実施したことは、今後につながる成果と言える。</p>
<p>今後の課題と取り組みの方向性</p>	<p>引き続き、指定管理業務に対するモニタリング等を通し、事業の進捗や結果について把握するとともに、課題の把握と分析を指定管理者と協力して行っていく。</p>

評価シート

所管課：文化スポーツ課

目標【2022年度】
ホール貸館利用者アンケートによる満足度で「良い」が75パーセントになっている。

令和元年度の取り組み

関係する事業名	文化プラザホール維持管理事業
事業内容	<p>目的：文化プラザホールの適切な管理、運営を行う。</p> <p>手段：ホールを利用する人が快適に過ごすことができるよう、貸館業務を実施するとともに、警備、舞台運営を含めた必要な管理業務を行う。</p> <p>内容：218,328千円（うち指定管理料215,350千円）</p>
実績	<p>○貸館利用者アンケート（12月1日～1月10日実施）</p> <p>「満足」「とても満足」合わせて88.2%。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者懇談会（1月21日実施）、利用確認書、意見箱等で意見を収集。 ・モニタリングの実施（毎月）
自己評価	<p>ホール運営については、貸館利用者満足度は微減したが、引き続き高水準を維持した。</p> <p>ヤマハグランドピアノのオーバーホールや、貸館利用者から要望が多かったプロジェクターの更新を実施する等、設備の充実を図った。</p>
外部有識者の意見	<p>貸館利用者の満足度が微減した原因については、分析を行う等して把握しておくことが求められる。</p>
今後の課題と取り組みの方向性	<p>指定管理業務に対するモニタリング等を通して、ホールの運営状況や課題について指定管理者と共有し、解決に向けて協議していく。</p>

評価シート

所管課：文化スポーツ課

目標【2022年度】
文化プラザホールの入場者（観客）が年10万人以上になっている。

令和元年度の取り組み

関係する事業名	文化プラザホール維持管理事業
事業内容	<p>目的：文化プラザホールの適切な管理、運営を行う。</p> <p>手段：ホールを利用する人が快適に過ごすことができるよう、貸館業務を実施するとともに、警備、舞台運営を含めた必要な管理業務を行う。</p> <p>内容：218,328千円（うち指定管理料 215,350千円）</p>
実績	<p>○入場者数 77,800人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぎさホール 50,832人 ・さざなみホール 26,968人
自己評価	<p>ホールの入場者数は、目標値には達しなかったが、おおむね高水準を維持した。</p>
外部有識者の意見	<p>文化振興への貢献度を測るのに、入場者数が評価の対象として相応しいかは検討の余地がある。</p> <p>入場者数が減少した原因については、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う休館等によるものとも考えられるが、自主文化事業の内容の見直しを行ったことや、市民ニーズを踏まえた運営を行っているか等も含めて検証されたい。</p>
今後の課題と取り組みの方向性	<p>引き続き、指定管理業務に対するモニタリング等を通し、ホールの運営状況や課題について指定管理者と共有し、解決に向けて協議するとともに、ホールの入場者数を高水準に維持するよう努めていく。</p>

2 スポーツを楽しむまち

(基本構想の取り組みの方向)

わたしたちは、スポーツ都市宣言の理念に基づき、市民一人ひとりがスポーツに親しみ健康な心とからだをつくる「健康づくり」、みんなでスポーツを楽しむ機会をつくり明るい生活を営むことができる「場づくり」、スポーツを通じていきいきとした地域連携の輪をひろげる「交流づくり」、スポーツを通じて活力に満ちたまちづくりを推進する「基盤づくり」を進めます。

一人でも多くの市民が、スポーツに親しみ、互いに高め合うことで、健康で豊かな生活を送ることができるよう、いつでも、どこでも、誰もが気軽にスポーツ、健康づくりができるまちをめざします。

— 逗子市総合計画（2015～2038）から抜粋 —

目標【2022年度】
逗子市スポーツの祭典への参加者が延べ 5,000人になっている。

令和元年度の取り組み

関係する事業名	スポーツ推進事業（逗子市スポーツの祭典）
事業内容	<p>目的：市民が生涯にわたって、生活の一部にスポーツを取り入れ、スポーツを楽しんでいくために、子どもから高齢者まで、すべての市民が気軽にスポーツに親しむことのできる機会を提供し、継続的にスポーツを実施していくためのきっかけづくりとして「逗子市スポーツの祭典」を実施していく。</p> <p>手段：逗子市スポーツの祭典実行委員会が主催し、逗子市体育協会をはじめ市内スポーツ関連団体と協働して開催する。</p> <p>内容：スポーツの祭典実行委員会交付金は、財政対策プログラムに基づき、平成30年度に引き続き休止し、財政的支援以外の事務局機能を担った。</p>
実績	<p>○逗子市スポーツの祭典2019を開催</p> <p>開催日時 10月20日（日）</p> <p>開催場所 逗子市立体育館及び第一運動公園</p> <p>参加者数 2,494人（前年度 1,731人）</p> <p>イベント数 28 種目（前年度 25 種目）</p> <p>市民まつりとの共同開催、元気な高齢者を増やそうプロジェクトとの連携、企業からの協賛金の確保、（公財）逗子市体育協会及び逗子市スポーツ推進委員協議会の協力等により実施した。</p>
自己評価	<p>東京 2020 オリンピック・パラリンピック及びラグビーワールドカップ 2019 日本大会™に関連するイベント、元気な高齢者を増やそうプロジェクトのキックオフイベント、市民まつりの参加型イベントと連携した景品付のスタンプラリー等の実施により、来場者のイベントへの参加意欲を高めることができた。</p> <p>イベント数を増やし、より多くの方が参加できるように</p>

	<p>工夫した。</p> <p>参加者数は、目標値には及ばなかったが、前年度と比べ763人増となった。</p> <p>スタンプラリーを活用し、初めて参加者アンケートを実施し、スポーツの祭典が今後スポーツを始めるきっかけになるかなど、貴重なデータを得ることができた。</p>
<p>外部有識者の意見</p>	<p>参加者が約700人増加したことは評価できる。</p> <p>(公財)逗子市体育協会と上手く連携している点も評価できる。</p> <p>目標の人数には足りていないが、良い増え方をしている。オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップの良いムードを引き継いでいる。</p> <p>会場から遠い小坪小学校の児童等をどのように参加につなげるか工夫があると良い。</p> <p>参加が少ない年齢層へのアプローチを検討する必要がある。</p>
<p>今後の課題と取り組みの方向性</p>	<p>令和2年度以降は状況が大きく変わっているため、コロナ禍でも実施できる手法を検討する。</p> <p>開催場所から遠い方や、参加率が低い年齢層へのアプローチを検討する。</p>

目標【2022年度】
「（仮称）スポーツに関する実態調査」において、成人の週1回以上のスポーツ実施率が3人に2人（66.7パーセント）となる

令和元年度の取り組み

関係する事業名	スポーツ推進事業（スポーツ支援体制の充実）
事業内容	<p>目的：市民のスポーツによる健康づくりのための支援体制の構築</p> <p>手段：スポーツによる健康づくりのための相談及び相談機会の情報提供</p> <p>内容：逗子アリーナ未病センターにてスポーツ健康相談等を実施する。 スポーツ・健康づくりの教室、指導者等の情報収集及び運用方法等を検討する。</p>
実績	<p>○健康・体力相談 39回、相談者125人 （前年度 43回、相談者136人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い4回中止（2月下旬～3月末） <p>○Zushi パーソナルトレーニングプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2クール（6～8月、1～2月）実施（各クール5人） <p>○小学生のためのスポーツ団体一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報更新及びホームページ上での公開 ・県ホームページ「スポーツ指導者（スポーツリーダーバンク）情報の検索」へのリンクを掲載
自己評価	<p>成人の週1回以上のスポーツ実施率は54.6%で、目標値を下回っているが、全国平均53.6%を上回っている。</p> <p>健康・体力相談については、前年度と同様に多くの方の相談に応えることができた。市役所未病センターと連携し、スポーツによる健康づくりをサポートする場としての周知と利用が進んだ。</p> <p>Zushi パーソナルトレーニングプログラムを平成30年度の試行結果を基に定期的実施した。市役所未病センターの保健師と逗子アリーナ未病センターの健康運動指導士と一緒に相談に応じることで個人の状態に合わせ</p>

	たトレーニングプログラムを提供することができた。
外部有識者の意見	<p>市役所未病センターの保健師と逗子アリーナ未病センターの健康運動指導士との連携はとても貴重であるので、継続してもらいたい。それゆえにこの連携が事業の要であるため、有資格者の増員を強化する必要がある。</p> <p>健康・体力相談は、怪我や病気の後、運動をしたいと思っている方の要望に応える良い取り組みである。新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、継続してもらいたい。</p> <p>Zushi パーソナルトレーニングプログラムも良い取り組みであり、効果が期待できる。プログラムを受けた方の参加後の追跡調査も行ってほしい。</p>
今後の課題と取り組みの方向性	引き続き、保健師と健康運動指導士との連携を図るとともに、Zushi パーソナルトレーニングプログラム等の成果が測れるような仕組みを検討する。

目標【2022年度】
総合型地域スポーツクラブ（うみかぜクラブ）の会員登録数が 1,000 件になっている。

令和元年度の取り組み

関係する 事業名	（逗子市体育協会の自主事業）																								
事業内容	<p>目的：生涯にわたって、誰もが気軽にスポーツを楽しみながら、健康維持・増進と地域の交流を深めることに寄与する。</p> <p>手段：逗子市体育協会、「うみかぜクラブ」との協議により高齢者向けスポーツのプログラムを含む各種教室を実施する。</p> <p>内容：うみかぜクラブの会員登録数及び参加者数を増やすため、事業の見直しを行った。</p>																								
実績	<p>〇うみかぜクラブの運営</p> <p>メニュー数 16メニュー（前年度 13メニュー）</p> <p>延べ開催数 761回（前年度 722回）</p> <p>延べ参加者数 21,136人（前年度 22,320人）</p> <p>1月当たりの参加者数 1,921人（前年度 1,860人）</p> <p>※2月下旬から3月末まで新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い休止している。</p> <p>【年代別の登録者数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0～19歳</td> <td>86人</td> <td>53人</td> <td>56人</td> </tr> <tr> <td>20～39歳</td> <td>21人</td> <td>19人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>40～59歳</td> <td>126人</td> <td>76人</td> <td>69人</td> </tr> <tr> <td>60歳～</td> <td>626人</td> <td>485人</td> <td>477人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>859人</td> <td>633人</td> <td>614人</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・新メニューの導入（Jr バドミントン卓球、健康筆習い等） ・全てのメニューで初回無料の取組み ・国保健康課が実施する特定検診の受診者向けに1回無料券を配付 		H29	H30	R元	0～19歳	86人	53人	56人	20～39歳	21人	19人	12人	40～59歳	126人	76人	69人	60歳～	626人	485人	477人	合計	859人	633人	614人
	H29	H30	R元																						
0～19歳	86人	53人	56人																						
20～39歳	21人	19人	12人																						
40～59歳	126人	76人	69人																						
60歳～	626人	485人	477人																						
合計	859人	633人	614人																						

	<p>〇うみかぜまつりの開催 開催日 令和2年2月9日（日） 開催場所 市立体育館 バドミントン、卓球及び社交ダンスの無料体験を実施</p>
<p>自己評価</p>	<p>会員登録数は614件と、目標値を下回っているが、メニューの追加や時間変更等により、会員のニーズに応えるメニュー構成とすることで、1月当たりの参加者数は前年度を上回った。</p> <p>うみかぜまつりでの無料体験の実施や、新メニューの導入、全てのメニューにおける初回限定無料の取組み等、新規の方でも参加しやすく、スポーツを始めるきっかけになるように努めている。</p>
<p>外部有識者の意見</p>	<p>登録数が減少しているが、これ以上大幅に減らないように努めてほしい。</p> <p>登録者数が減っているのに対して延べ参加者数が増えているのは、リピート率が上がっているということであり、その点は評価できる。</p> <p>引き続き、多くの方が参加したいと思うメニューを検討してもらいたい。特に、10～20代の若年層の会員を増やす対策が必要である。</p>
<p>今後の課題と取り組みの方向性</p>	<p>引き続き、逗子市体育協会と協議し、特に若年層に魅力のあるメニューの設定等、必要な改善を図り、新規参加者が増加する環境づくりを進めていく。</p>

3 学校教育の充実したまち

(基本構想の取り組みの方向)

人は自然と社会の中で生涯学び続けていくことが必要です。その入り口の一つとして学校教育は大きな役割を果たすものです。今日、価値観の多様化や高度な情報化社会の中にあって、子どもたちが身につけなければならない力は多岐にわたっています。これまで受け継がれてきた知識や文化・伝統などを踏まえ、地域社会や家庭と連携し人間性溢れる教育、限りある命を生きていることの素晴らしさを感じることができる教育を行っていくこと、そしてこれからの国際社会の一員として生きていく力を養うことが必要です。

いつの時代にも変わってはならない本質の部分の土台に、その時々々の教育的課題に臨機応変に対応して、「豊かな人間性」・「確かな学力」・「健康な心身」を目標として『自ら考え、心豊かに、たくましく生きる逗子の子ども』の育成を図ります。

— 逗子市総合計画（2015～2038）から抜粋 —

評価シート

所管課：学校教育課

目標【2022年度】
「お互いを認め合える学級づくり」が、すべての学級で行われている。

令和元年度の取り組み

関係する事業名	教員の授業力・学級経営力・児童・生徒指導力向上重点事業
事業内容	<p>目的：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共に学び共に育つ教育を推進し、温かい人間関係を構築しながら、お互いに認め合える集団をつくる。 ・いじめなど問題行動に対して、未然防止・早期発見・早期対応・早期解決を学校組織として推進する。 <p>手段：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実態把握に向けて生活アンケートを定期的実施する。 ・成長段階に応じて、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング等の手法を取り入れられるようなアドバイスおよび提案を行う。 ・支援教育推進巡回チームなど専門機関によるコンサルテーションを活用して集団作りにあたる。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒理解を目的に「困っている子への支援のあり方について」と題し、逗子市教育委員の星山麻木氏を講師として市内小・中学校全教員の悉皆研修を行った。 ・国の「いじめの定義」を児童・生徒指導担当会、教育相談コーディネーター担当者会において、指導主事はその趣旨を説明し、各学校において積極的にいじめを認知し、早期対応することを徹底した。 ・教育指導教員や支援教育推進巡回チームのアドバイス、指導主事が研究授業等で指導助言をする際には、指導方法に関するだけでなく、児童・生徒への接し方や言葉の掛け方、集団づくりに関することに必ず触れ、特に経験の浅い先生方に対して、広い視野を持ってもらえるよう努めた。

評価シート

<p>自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの認知については、文部科学省のいじめの定義をもとに、早期対応に向け軽微なものも積極的に認知していくことを管理職や教育相談コーディネーター、児童・生徒指導担当に周知したが、すべての教員に十分に伝わらずに、学校ごとに上がってくる認知件数に差があった。 ・お互いを認め合う集団とするために、子どもたち同士のかかわりの中で、少しでも不快な思いをさせた行為については、積極的にいじめと認知し、適切な対応が求められる。 ・児童・生徒の行動の背景にあるものの見方、傾聴の仕方等子どもたちに寄り添ったかかわり方を研修等通じ身に付けてもらえるよう、知識だけでなく、実践的な内容を盛り込んだ研修を学校の求めに応じて年間 10 回実施したが、今後も計画的に実施していく。
<p>外部有識者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経験の少ない教師が、児童・生徒や保護者から信頼を得ることは難しいことです。そこで指導助言する際に、児童・生徒への接し方、言葉のかけかた、集団作りに関する重要性について触れたことは必要なことと考えます。 ・いじめの定義に関して教員一人ひとりが共通の認識の上に立って生徒指導を進めることは必要なことです。特に予防したり、適切な対応する際には保護者との連携が重要です。
<p>今後の課題と取り組みの方向性</p>	<p>いじめの認知については、数の多寡に限定せず、学校ごとの認知に対して偏りが無いよう、引き続き、国のいじめの定義等を、教員に対して丁寧に説明をしていくとともに、認知した事例を共有する場を設けるなど、早期発見・早期対応に向けた対応につながるよう工夫をしていく。</p> <p>支援教育に関わる夏季研修については、ここ数年、同一の講師、テーマで実施してきた。新採用や経験年数が浅い教員が増えている中、同一講師、テーマによる研修は、本市の支援教育に関わる根本的な姿勢を広く周知する意味もあり、さらに中堅、ベテランには改めて日ごろの授業、子どもたちとのかかわり方について振り返る機会にもなるため、今後も継続していく。</p> <p>一方で、支援教育に関わる研修会への市内参加者が一桁にとどまった講座もあり、教員のニーズに対して、テーマ設定等が適切かの検討を行う必要があると考える。</p>

評価シート

	<p>また、教員による「授業づくり」「集団づくり」に関する自己チェックリストを有効に活用し、教員に対する個別の指導・助言に活かしていく。</p>
--	--

評価シート

所管課：学校教育課

目標【2022年度】
すべての教員が「自己チェックリスト」を活用して授業と学級経営についての振り返りを行っている。

令和元年度の取り組み

関係する事業名	教員の授業力・学級経営力・児童・生徒指導力向上重点事業
事業内容	<p>目的：各市立学校において、「わかりやすい授業」や「お互いを認め合う学級づくり」などに関する教員の指導力向上を図り、予防的な指導・成長を促す指導・課題解決的な指導を推進することによって、児童・生徒の健全育成をより一層図る。</p> <p>手段：①校長会議等諸会議における活用依頼②各チェックリストについての「解説」をグループウェア（and.T）のキャビネットに掲載③支援教育推進巡回チームや教育指導教員による助言・指導時における自己チェックリストの活用。</p> <p>内容：授業・学級経営・児童・生徒指導・人権感覚の自己チェックリスト活用を図り、教育指導教員や支援教育推進巡回チームと改善策を協議する。</p>
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業」「学級経営」「児童・生徒指導」「人権感覚」についての自己チェックリストをすべての教員が年2回実施した。 ・管理職が自己チェックリストの分析を行い、必要に応じて、教員に対して指導・助言を行った。 ・「授業」に関するチェックリストをもとに、教育指導教員と支援教育推進巡回チームがフィードバックを行っている。

評価シート

<p>自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己チェックリストの実施は市内の全教員が実施し自らの授業、学級経営、児童・生徒とのかかわり方等について振り返る機会となった。 ・自己チェックリストをもとにした、教育指導教員や支援教育推進巡回チームによる本人へのフィードバックにより、教員自身の成長や改善に結びついているかを確認するため、継続的かつ定期的な実施と、分析が必要になってくる。 ・継続的かつ定期的な実施のために、少なくとも前期末・後期末の2回を必須とし、各学校で分析も行っているが、学期末の多忙時期の実施となるため、学校は少なからず負担感を感じている。
<p>外部有識者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己チェックリストの実施が定着化していること、また入力結果がインターネット上で集計出来るようにされていることは評価出来ます。 ・教員が自己チェックリストを実施することが、自身の振り返りになると考えます。さらに集計結果の分析から、次の実践のための具体的な手立てを提示出来ると良いと考えます。
<p>今後の課題と取り組みの方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己チェックリストの実施にあたり、教員の負担感を少なくするため、インターネット上で回答ができ、集計も自動的に行われる手立てを講じる。 ・教育指導教員や支援教育推進巡回チームが行う授業観察後の本人へのフィードバックにおいて、自己チェックリストの結果も踏まえた教員への助言を行うことで、授業改善や学級経営、児童・生徒とのかかわり方に活かしてもらうよう努める。

評価シート

所管課：学校教育課

目標【2022年度】

個別支援が必要なすべての児童・生徒に対し、支援シートが作成され、活用されている。

令和元年度の取り組み

<p>関係する 事業名</p>	<p>教育相談事業・就学事務事業</p>
<p>事業内容</p>	<p>目的：・円滑な就学を図るために、就学予定者の適切な就学指導を行う。 ・小・中学校に在籍する支援を必要とするすべての児童・生徒について、支援シートを作成し、日常的な支援に活用する。</p> <p>手段：・就学支援委員会において支援が必要な児童・生徒への適切な支援について協議する。審議資料として支援シートを活用する。 ・支援を必要とする児童・生徒について、学校・家庭・福祉が連携して支援シートを作成し、日常的な支援に活用していく。</p> <p>内容：就学支援委員会に係る費用 ・委員会医師報酬 91千円</p>
<p>実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級在籍児童・生徒及び通級指導教室通級児童については、100%支援シートが作成され、6月に教育委員会に提出され、さらに、後期に見直しが行われた。 ・適応指導教室通室、不登校、支援教室利用の、それぞれの児童・生徒については、22件支援シートが作成され提出された。 ・支援シートの作成に当たっては、保護者のみならず、福祉の関係者も作成に加わり、多角的な視点で児童・生徒の支援について、検討する機会となった。 ・福祉関係者が作成に加わった件数は39件あり、主な関係先として 相談支援事業所や児童発達支援・放課後等デイサービス事業所等があった。

評価シート

自己評価	<ul style="list-style-type: none">• 福祉関係者も支援シート作成の趣旨について理解が深まり、作成の協力を得ることができた。• また、定期的に見直しがなされ、児童・生徒の成長や課題を共有し支援に結びつけることができた。• 不登校児童・生徒の支援シートの作成件数が、実態に比べ少ないため、学校に対しての周知が必要となってくる。
外部有識者の意見	<ul style="list-style-type: none">• 昨年度の目標の一つの適応指導教室通室、不登校、支援教室利用の、児童・生徒の支援シートが作成され提出がされた事は教育委員会の努力の成果と考えます。また支援シートの作成にあたって保護者や福祉の関係者の協力も得られたことも評価できます。• 様々な課題を持った児童・生徒の支援ということで、支援シートに基づく指導が各学校で行われることを期待します。
今後の課題と取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none">• 支援シート作成については、就学相談時や学校における個人面談等で、作成の趣旨を保護者に対して丁寧に説明し、支援に向けた内容の充実や関係機関との連携を今後も継続して行っていく。

目標【2022年度】

ICT（情報通信技術）環境を整え、情報機器を活用した授業づくりをすべての教員が児童・生徒のニーズに応じて行っている。

令和元年度の取り組み

<p>関係する 事業名</p>	<p>教育用コンピュータ維持管理事業</p>
<p>事業内容</p>	<p>目的： <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒への情報教育の促進を図る。 ・教員の指導力の向上を図る。 手段： <ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上を目的とした研修を設定する。 ・課題等の情報共有・上記目的達成に繋がる協議を目的とした、教育情報化推進会議を開催する。 内容： <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータその他周辺機器等の維持管理 ・授業力向上研修 ・教育情報化推進会議開催 ・校内研究の実施 ・校務支援システムの活用推進 </p>
<p>実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校に iPad を整備したことに伴い、小学校においては授業における iPad の活用について、同時に導入した授業支援アプリやドリルアプリの使用方法等を含めて研修会を行った。 ・夏季研修として、「どうして教育に ICT が必要なのか」をテーマに、情報通信総合研究所の平井聡一郎氏を講師に招き、参加者が実際にタブレットを操作しながら参加する研修会を実施した。
<p>自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業において ICT 機器が効果的に活用されているが、経年劣化でプロジェクターが使用できなかつたり、中学校においては、教室にネット環境がないため、インターネットを使った授業が教室でできなかつたりする。 ・小学校においては、iPad がセルラータイプのため教室でもインターネットに接続できるため、グループで調べ学習をするなどの活用が進んでいる。 ・一部の先生だけの活用だけではなく、学年全体、学校全

	体と活用事例が共有されることが望ましい。
外部有識者の意見	<ul style="list-style-type: none"> •ハードウェアの状況の改善が厳しいようですが、さらに教育委員会の環境改善の努力をお願いします。またわかりやすい授業のために、教育委員会や先生方のさらなる創意工夫を期待します。 •教具の一つである情報機器の活用は教師の課題です。先生方の工夫による実践例を共有するために、研究授業や、公開授業をさらに推進して頂きたい。
今後の課題と取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> •令和2年度中に国のGIGAスクール構想により、小・中学校の全ての教室にwifi環境が整備されるとともに、一人1台のタブレット端末が整備される。整備された端末を効果的に活用するための研修会の実施や、実践事例集の作成等により、ICTを活用した教員の指導力の向上を図り、情報教育を促進していく。

4 子どもも大人も共につながり成長していくまち

(基本構想の取り組みの方向)

わたしたちは、将来像の中で「人間を大切にするまちでありたい」とうたっています。この理念の実現のためには、市民一人ひとりが地域に愛着を持ち、まちづくりに積極的に関わる「ひとづくり」がその第一歩となります。

社会教育の充実をめざして、過去から附託された人類共通の財産である文化財を適切に保存し、未来に引き継いでいくとともに、現代的課題や地域課題について、共に学び、個を高め合う機会を広く市民に提供し、学校、地域、家庭のつながりを強化していくことで、地域社会、さらには世界に貢献できる「ひとづくり」に市民と共に取り組んでいきます。

わたしたちは、子どもも大人も共につながり成長していくまちの実現をめざします。

— 逗子市総合計画（2015～2038）から抜粋 —

評価シート

所管課：社会教育課

目標【2022年度】

地域課題の解決に向けた人材育成のための講座やイベントが開催されている。

令和元年度の取り組み

<p>関係する 事業名</p>	<p>各種講座事業（地域課題）</p>
<p>事業内容</p>	<p>目的：市民の高度な学習要求に応えるため、逗子の歴史や文化財、現代的課題、地域課題等の学習機会を提供する。市民の学習活動やまちづくり、ひとづくりの講座を開催することで、地域活動等へのデビューのきっかけづくりを行い、地域の課題を地域で解決できる人材育成をめざす。</p> <p>手段：逗子の歴史や文化財、現代的課題の講座、地域の課題を地域で解決するための人材を育成する講座等を開催する。</p> <p>内容：・サードエイジ連続講座 業務委託料（1講座・全4回） 99,999 円 ・逗子の歴史と文化財講座 講師謝礼金 60,000 円</p>
<p>実績</p>	<p>・サードエイジ連続講座 逗子の魅力を楽しく学び、友人・仲間を見つけ、学んだ知識を地域社会へ活かすことを目的とした「サードエイジ連続講座」を平成27年度から引き続き開講、第5期目となった。 NPO法人逗子まちなかアカデミーと協働により実施。各回の内容は次のとおり。講義、クイズ形式、ディスカッションなどをまじえて行った。</p> <p>第1回：基調講演「これからの地域医療のあり方」 第2回：明治時代の日本の歴史を学びま専科～大山捨松の生涯と小説「不如帰」秘話～ 第3回：昔とは違う、今どき孫育て、学びま専科 第4回：逗子のことをもっと知りま専科～逗子検定プロジェクトを紹介します～</p>

評価シート

	出席者数	アンケート回収率	点数記載率	平均点
第1回	14名	100.0%	92.9%	88.8点
第2回	28名	96.4%	74.1%	92.3点
第3回	13名	100.0%	69.2%	95.0点
第4回	16名	75.0%	83.3%	90.5点

・逗子の歴史、文化財に関する講座
 地域に対する知識と理解を深めることで地域づくりに繋がる人づくりに向けた動機づけとすべく、郷土の自然と歴史、文化遺産を学習する機会を提供し、市民の自主的な学習活動や地域活動のきっかけづくりとした。
 講師は、本市古墳群整備検討会委員、文化財保護委員会委員、および社会教育課非常勤事務嘱託員。

①「大廓型壺と長柄桜山古墳群-稲粃の海上輸送を担った湊-」
 ②「中世の港湾都市・小坪郷の世界 -湊町飯島と港和賀江島-」
 ③「古文書に見る逗子～ペリーと逗子～」

	出席者数	アンケート回収率	点数記載率	平均点
①	64名	89.1%	75.4%	87.2点
②	57名	89.5%	78.4%	85.7点
③	51名	82.4%	66.7%	78.8点

・サードエイジ連続講座は、年々、受講者が企画側に参加しているなど、講座修了生の活動の場となっている。
 ・サードエイジ連続講座については、委託先のNPO法人による主宰イベント等において、受講者の地域参画をサポートするなど、人材育成に寄与している。
 ・歴史と文化財講座は高齢者の関心が高く、元気な高齢者づくりの効果が期待できる。
 ・本市文化財保護委員に講師依頼し、地域に根差した文化財について学ぶ機会は、非常に貴重と考える。

・逗子の歴史・文化に関する講座は、安定した人気があることがうかがえる。郷土愛＝地域のブランド力のアップとなるだろう。
 ・逗子の魅力を活かした講座が開催できた。

評価シート

今後の課題と 取り組みの方 向性	<ul style="list-style-type: none">• 人材育成に係る講座は、短期的な効果が見えにくいですが、受講者を企画側に取り込むなど、フォローアップができるNPO 法人と継続的に連携、実施することで、修了生の活動について中長期的に検討していく。• 地域課題に取り組むことができる人材育成について、近隣他市の社会教育事業をリサーチしながら中長期的な視点で展開していく。• 少子高齢化社会で、元気な高齢者こそが、地域社会の重要な構成要素であることから、関心の高い人文系の講座は継続的に実施する。
------------------------	--

評価シート

所管課：社会教育課

目標【2022年度】
社会教育講座等各種講座において、アンケート調査による受講者評価が80点を超えている。

令和元年度の取り組み

関係する事業名	人権教育等事業
事業内容	<p>目的：人権問題について正しい理解を深める。 手段：人権啓発事業を実施する。 内容：</p> <p>講師謝礼金・講座開催業務委託料 90,000 円 人権教育啓発用パンフレット印刷費 157,000 円 交流センター会議室等使用料、映画賃借料 40,500 円</p>
実績	<p>以下の3講演等を開催。</p> <p>① 「第39回全国中学生人権作文コンテスト逗葉地区入賞者の表彰と朗読」および死刑囚との関りを通して人権や生きることをテーマにした映画「教誨師」上映会（市民協働課、葉山町と共催）。</p> <p>② 「優しさとは気づくこと。世界と溶け合う僕らの社会」 国際社会で様々な違いをもつ人々が、差別をこえてともに生きるために大切なことは何かを考える講座を開催。（逗子フェアトレードタウンの会、市民協働課と共催）</p> <p>③ 「いま知りたい多様な性～LGBTとこどもたち」 ひとりで悩みを抱えやすいといわれているセクシャルマイノリティの子どもたちに対して、どのような関りや支援が必要なのか、学校や家庭、地域の大人に何ができるのか学ぶ。</p> <p>④ 「身近な認知症～家族介護の体験を通して考える～」 認知症への正しい理解を深め、認知症の方やその家族に寄り添うこと、安心して暮らせる地域のあり方について考える。</p>

評価シート

	出席者数	アンケート回収率	点数記載率	平均点	
	①	106名	50.0%	56.6%	85.7点
	②	110名	8.2%	77.8%	92.9点
	③	67名	100.0%	62.7%	92.5点
	④	23名	82.6%	73.7%	94.5点

自己評価	<p>受講者評価はすべての講座において目標を上回った。 市長部局、近隣自治体、市民団体との共催・連携して実施することで内容の充実を図っている。</p> <p>多様な人権課題において、性的マイノリティ＝LGBTにフォーカスして講演会、パンフレットを製作した。製作過程で、人権団体や当事者の皆さんの協力を得ながら、判りやすいパンフレットが発行できた。</p>
外部有識者の意見	<ul style="list-style-type: none"> • 他部署や団体との連携・共催による定期的な開催は、大変評価でき、より専門的に充実した内容になっていると思われる。 • 認知症に直面している人は多く、テーマとして今後ますますのニーズを感じる。 • 現在人権教育で強く求められている、トランスジェンダー等少数者といえる人への理解を深める機会を提供できた。 • 成人教育と学校教育を連携させるなど、さらに人権啓発を進めていく工夫が必要である。
今後の課題と取り組みの方向性	<p>人権教育・啓発に関する機会を継続的に設けていく。取り上げる人権課題については、普遍的な人権課題に、新たに発生している現代的な人権課題も含めて啓発していく。</p>

評価シート

所管課：社会教育課

目標【2022年度】
地域で子どもを育てる環境づくりの構築に向けた家庭教育講座が5回開催されている。

令和元年度の取り組み

関係する事業名	家庭教育講座事業																							
事業内容	<p>目的：家庭教育に関する学習機会を提供し、家庭の教育力の向上を図る。</p> <p>手段：家庭教育の向上を図り、地域全体で家庭教育を支えるため、子育て中の保護者及び子育てに関する地域活動に関わる人たちへの支援を行う講座を企画し開催する。</p> <p>内容：</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">講師謝礼金</td> <td style="width: 30%; text-align: right;">180,000 円</td> </tr> <tr> <td>交流センター会議室等使用料</td> <td style="text-align: right;">30,000 円</td> </tr> </table>				講師謝礼金	180,000 円	交流センター会議室等使用料	30,000 円																
講師謝礼金	180,000 円																							
交流センター会議室等使用料	30,000 円																							
実績	<p>以下の2講座を開催（うち、1講座は連続講座）</p> <p>①「子ども子育て連続講座」（全6回）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「現代の子どもの育ち・子育てで心配なこと」 2) 「地域子育て支援の実践をどのようにつなげるか」 3) 「現代の保育課題と今後の保育の可能性」 4) 「母親の心理的サポート・保育者から考える虐待の予防と対応」 5) 「野外遊びに関わる父親の登場」 6) 「これからの子どもの育ち・子育てを地域でどのように支援していくか」 <p>②「子どもを伸ばす家族の会話」</p> <p>子どもの自己肯定感を育む家庭内のコミュニケーションのあり方について学ぶ。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 15%;">出席者数</th> <th style="width: 15%;">アンケート回収率</th> <th style="width: 15%;">点数記載率</th> <th style="width: 15%;">平均点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①-1</td> <td style="text-align: center;">9名</td> <td style="text-align: center;">88.9%</td> <td style="text-align: center;">62.5%</td> <td style="text-align: center;">96.6点</td> </tr> <tr> <td>①-2</td> <td style="text-align: center;">12名</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> <td style="text-align: center;">75.0%</td> <td style="text-align: center;">96.6点</td> </tr> <tr> <td>①-3</td> <td style="text-align: center;">12名</td> <td style="text-align: center;">91.7%</td> <td style="text-align: center;">54.5%</td> <td style="text-align: center;">81.7点</td> </tr> </tbody> </table>					出席者数	アンケート回収率	点数記載率	平均点	①-1	9名	88.9%	62.5%	96.6点	①-2	12名	100.0%	75.0%	96.6点	①-3	12名	91.7%	54.5%	81.7点
	出席者数	アンケート回収率	点数記載率	平均点																				
①-1	9名	88.9%	62.5%	96.6点																				
①-2	12名	100.0%	75.0%	96.6点																				
①-3	12名	91.7%	54.5%	81.7点																				

評価シート

	①-4	11名	90.9%	80.0%	96.3点
	①-5	8名	100.0%	50.0%	95.0点
	①-6	12名	91.7%	63.6%	96.4点
	②	22名	100.0%	81.8%	96.1点
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度は2講座(7回)を開催し、目標を達成した。 発達や成長、保育や外遊び等、子育てに関わる全ての保護者と支援者を対象とした「子ども・子育て連続講座」と、母親が自己を尊重し自分らしく子育てすることの重要性などを学ぶ講座を開催し、保護者の仲間づくりのきっかけを図った。 「子ども・子育て連続講座」については内容がよかったものの、子育ての当事者(保護者)、支援者の両方を対象としたためテーマが広範になり、双方にとって関心の薄いテーマが混在した結果、受講の申し込みが伸び悩んだ。連続講座については、ターゲットの絞り込みと個別回毎の周知等の工夫が必要。 				
外部有識者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 評価の高い講座が多い中で、「子ども・子育て連続講座」の応募率がほぼ50%なのは勿体ないと感じる。開催日時の設定や、対象の絞り込み、告知のタイミングなど、子育て世代、現役世代が参加しやすい工夫が必要である。 「子ども・子育て連続講座」は、応募人数は高くないものの、幅広い年齢層の方が参加されたことと、アンケート自由記述の多さ・濃さより、反響の高さが感じられた。 				
今後の課題と取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> 連続講座については、テーマと受講対象の絞り込み、周知の方法に工夫をしていく。 より幅広い視点とテーマで家庭教育に関する講座行うべく、講座内容について、より自由度の高い「各種講座事業」へ、事業予算の一部を移すことも検討していく。 				

評価シート

所管課：社会教育課

目標【2022年度】
市指定文化財の数が増加している。

令和元年度の取り組み

関係する 事業名	文化財保護委員会経費
事業内容	<p>目的：文化財保護行政を推進するにあたり、文化財全般にわたった専門的な考察に基づく意見を聴取する。</p> <p>手段：教育委員会の諮問等に応じて、答申もしくは意見を具申する。</p> <p>内容：文化財保護委員報酬 188,000 円 ほか</p>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> 文化財保護委員会を開催し、新規指定に向けた検討及び意見聴取を行った（4回）。
自己評価	<p>令和元年度においては、新たな文化財の指定はなかったが、指定候補物件の学術的な評価や諸条件等について整理し、具体的な検討を行ない、継続的に調査を進めた（池子神明社神輿）。</p>
外部有識者の意見	<p>指定は文化財保護行政の基本であり、昨年度久しぶりに実現した流れを断ち切ることをしないよう予算措置等に努力して欲しい。また、公開活用も積極的に進めて欲しい。</p>

評価シート

今後の課題と 取り組みの方 向性	厳しい財政状況の中、引き続き継続的に新規指定に向けた事務を進めるとともに、様々な機会をとらえて指定文化財を市民に公開する必要がある。
------------------------	--

評価シート

所管課：社会教育課

目標【2022年度】
名越切通、長柄桜山古墳群第1号墳の整備が完了し、公開活用されている。

令和元年度の取り組み

関係する事業名	名越切通維持管理事業												
事業内容	<p>目的：国指定史跡名越切通の公開活用を図る。</p> <p>手段：植生等、名越切通を適切に維持管理する。まんだら堂やぐら群を期間限定公開する。</p> <p>内容：公開日数48日、入場者数5,409人</p> <table border="0"> <tr> <td>臨時職員（公開管理員）賃金</td> <td>863,820円</td> </tr> <tr> <td>仮設トイレ、テントリース料</td> <td>183,120円</td> </tr> <tr> <td>植生管理業務委託料（4回）</td> <td>1,558,798円</td> </tr> <tr> <td>階段補修業務委託料</td> <td>43,200円</td> </tr> <tr> <td>その他経費</td> <td>60,382円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ほか</td> </tr> </table>	臨時職員（公開管理員）賃金	863,820円	仮設トイレ、テントリース料	183,120円	植生管理業務委託料（4回）	1,558,798円	階段補修業務委託料	43,200円	その他経費	60,382円		ほか
臨時職員（公開管理員）賃金	863,820円												
仮設トイレ、テントリース料	183,120円												
植生管理業務委託料（4回）	1,558,798円												
階段補修業務委託料	43,200円												
その他経費	60,382円												
	ほか												
実績	<ul style="list-style-type: none"> • まんだら堂やぐら群限定公開を行い、来訪者に対して運営管理のための寄附金を募った。（寄附金 356,446 円）。 • 名越切通の公開活用エリアについて、適宜植生管理を行った。 • 管理施設（階段）の補修、未公開エリア等の除草作業を行った。 												
自己評価	<p>まんだら堂やぐら群の来場者数は、一昨年度同様、公開日数の縮小に伴って減少したものの、概ね好評を博している。</p> <p>史跡全体の維持管理についても適切に行っている。</p>												

評価シート

外部有識者の意見	適切な維持管理および公開活用が図られている。
今後の課題と取り組みの方向性	<p>現状の臨時職員による管理体制は課題が多く、新たな公開活用の方法を引き続き検討する。</p> <p>緊急財政対策により平成 30 年度に開始したまんだら堂やぐら群来場者からの寄附金募集については、継続して実施する。</p>

令和元年度の取り組み

関係する事業名	名越切通整備事業
事業内容	<p>目的：国指定史跡名越切通を適切に保存し、公開活用する。</p> <p>手段：整備計画、実施計画等に基づき、国県の指導助言及び整備検討会の意見を踏まえながら整備する。</p> <p>内容：整備検討会委員報償費 60,000円 危険やぐら保存工事代 13,717,000円 同工事施工監理等業務委託料 1,650,000円 誠行社脇斜面測量業務委託料 1,998,000円 誠行社脇斜面調査業務委託料 7,370,000円 危険木伐採等業務委託料 495,720円 倒木処理等業務委託料 816,255円 ほか</p>
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・名越切通まんだら堂やぐら群の保存工事を行った。 ・誠行社脇斜面の崩落対策に向け、地形測量、ボーリング調査を行った。 ・整備に支障のある危険木の伐採処分等を行った。 ・台風による倒木の処理を行った。 ・整備検討会を実施した。(1回)

評価シート

自己評価	<p>国庫補助金の縮減や市の財政事情等の影響で、当初の年次計画よりも遅延しているが、整備の完了に向けて着実に進捗している。</p> <p>崩落の危険が指摘されている誠行社脇斜面において地質調査を行い、表層崩壊の危険範囲が明らかになった。</p> <p>台風被害復旧を、国庫補助を受けて実施し、市の財政負担を抑制することができた。</p>
外部有識者の意見	<p>概ね適切に進捗している。危険な斜面の安全対策は適切に行ってほしい。</p>
今後の課題と取り組みの方向性	<p>計画的に保存工事を行うやぐら以外に、大きな支出をとともなう斜面对策（対策施工）を実施する必要があるため、厳しい財政状況の中、整備年次計画の遅延が懸念される。</p>

令和元年度の取り組み

関係する事業名	古墳整備事業
事業内容	<p>目的：国指定史跡長柄桜山古墳群を適切に保存し、公開活用する。</p> <p>手段：整備計画、実施計画等に基づき、国県の指導助言及び整備検討会の意見を踏まえながら整備する。</p> <p>内容：第1号墳整備工事代 16,142,500円 同工事施工監理等業務委託料 2,035,000円 第2号墳修景伐採工事代 728,200円 草刈業務委託料 151,800円 ほか</p>

評価シート

実績	<ul style="list-style-type: none"> ・整備検討会を開催した（2回。うち1回は書面開催）。 ・第1号墳保存工事（第6期）を行った。 ・第2号墳修景伐採工事を行った。 ・適宜草刈等の維持管理を行った。
自己評価	<p>国庫補助金の縮減や市の財政事情等の影響で、当初の年次計画よりも遅延しているが、整備の完了に向けて着実に進捗している。</p>
外部有識者の意見	<p>計画が大きく遅延することのないよう留意しつつ、しゅん工後の活用方法についても検討して欲しい。</p>
今後の課題と取り組みの方向性	<p>厳しい財政状況の中、葉山町と協力・調整しつつ、第1号墳の早期しゅん工・供用開始を目指す。</p> <p>周辺住民から住環境への十分な配慮を求められており、活用については緑地やハイキングコースの所管と連携を図る必要がある。</p>

評価シート

所管課：社会教育課

目標【2022年度】
文化財収蔵庫が設置され、遺物が適切に保管されている。

令和元年度の取り組み

関係する事業名	池子遺跡群保護事業
事業内容	<p>目的：池子遺跡群の発掘調査成果を適切に保存活用する。</p> <p>手段：神奈川県指定重要文化財（約240点）をはじめとした多数の出土品及び図面写真等の各種記録類を整理し公開する。必要に応じて木製品等の保存処理を進める。</p> <p>内容：所蔵資料保存処理業務委託料 396,000円 ほか</p>
実績	<ul style="list-style-type: none"> 年間開館日数282日 来館者数1,417人 7点（木製品4点、鹿角製品3点）の保存処理を実施した。
自己評価	<p>文化財収蔵庫は設置されていない。池子遺跡群資料館については来館者数は減少傾向にあり、郷土資料館が廃止になったことを受け、通史を学べるよう工夫し、展示内容及び周知方法等について改めて検討する必要がある。</p> <p>池子の森自然公園内における文化財収蔵展示施設建設については、具体的進捗がなかった。</p>
外部有識者の意見	<p>郷土資料館の廃止は致し方ないが、池子遺跡群資料館は狭小で不十分なため、新たな展示にあたり工夫に努めてほしい。</p>

評価シート

今後の課題と 取り組みの方向性	<p>郷土資料館の廃止を踏まえ、総合的な文化財展示を念頭に、内容の更新や特別展示等を検討する。</p> <p>文化財収蔵展示施設については、池子の森自然公園の日米共同使用という性質に起因する制約も多く、最終的には当該地を含むエリアの返還を見据える必要があるため、長期的な計画とならざるを得ない。</p>
--------------------	---

評価シート

所管課：図書館

目標【2022年度】

図書館において、様々なテーマの設定により、年間30回以上の図書の展示を行い、読書の推進を図る。

令和元年度の取り組み

関係する事業名	図書館活動事業																				
事業内容	読書に親しむ機会の提供と図書館利用の促進に努める。																				
実績	<ul style="list-style-type: none"> • 登録状況 登録者数（内、元年度新規登録者） 42,981人（1,930人） • 貸出状況 <table style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>貸出者数</th> <th>貸出点数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図書館</td> <td>173,504人</td> <td>382,586点</td> </tr> <tr> <td>分室</td> <td>25,557人</td> <td>55,082点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>199,061人</td> <td>437,668点</td> </tr> </tbody> </table> • 展示 <table style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td>図書館</td> <td>98回（一般70回 児童28回）</td> </tr> <tr> <td>小坪分室</td> <td>11回（一般11回 児童0回）</td> </tr> <tr> <td>沼間分室</td> <td>20回（一般11回 児童9回）</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>129回（一般92回 児童37回）</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-left: 40px;">*一般展示には、郷土・健康医療・臨時・追悼 高齢者・名画座を含む。</p> 		貸出者数	貸出点数	図書館	173,504人	382,586点	分室	25,557人	55,082点	合計	199,061人	437,668点	図書館	98回（一般70回 児童28回）	小坪分室	11回（一般11回 児童0回）	沼間分室	20回（一般11回 児童9回）	合計	129回（一般92回 児童37回）
	貸出者数	貸出点数																			
図書館	173,504人	382,586点																			
分室	25,557人	55,082点																			
合計	199,061人	437,668点																			
図書館	98回（一般70回 児童28回）																				
小坪分室	11回（一般11回 児童0回）																				
沼間分室	20回（一般11回 児童9回）																				
合計	129回（一般92回 児童37回）																				
自己評価	<p>展示については、図書館及び両分室とも開催回数及び利用者人数において安定し、目標値を達成している。</p> <p>利用者に興味ある展示を継続して実施し、両分室においても様々なテーマにおける展示を行い、各々利用者の図書館利用に対する認識が数値結果として表れているものと判断できる。</p>																				

評価シート

<p>外部有識者の意見</p>	<p>目標数値については、市民の要求に応えるような興味深い展示の実施など、質的にも高い内容の活動の中で着実に目標値を達成していることが評価される。小坪、沼間の両分室においても、取り組みの成果が認められる。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響による年度末の閉館と各種サービスの中止・縮小はやむを得ないものと考えられる（新年度についても4月、5月まで休館、6月より段階的サービス再開となっている。コロナが沈静化するまでの利用動向に注視が必要であろう）。</p> <p>単に数値による評価にとどまらず、地域住民のニーズや特性、また障がい者や高齢者など社会的弱者にも細やかに、幅広く対応する情報発信の場を提案することを期待する。</p>
<p>今後の課題と取り組みの方向性</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、現在は利用者の安心安全を最優先として、感染防止策を講じたうえで、図書館サービスの提供を行っている。</p> <p>これからの図書館サービスは、従来とは相当に異なる視点が求められる。</p> <p>そのため、利用動向に注視して、幅広い利用状況の収集や分析を行う必要があると認識している。</p> <p>合わせて、数値評価のみにとどまらず、子どもから大人まで全ての市民が利用できる図書館サービスの提供に努めていき、家庭や地域、学校、更にはコミュニティーセンター、子育て、高齢者などの関係機関や団体と連携して、より幅広い年齢層への取り組みを進めていきたい。</p> <p>そのほか、図書館ホームページ等においても、最新の情報発信を行うとともに、適切な情報提供・情報発信を積極的に行っていく。</p>

5 障がい者が安心して自分らしく暮らし続けられるまち

(基本構想の取り組みの方向)

これまでわたしたちが築いてきたノーマライゼーションとリハビリテーションの理念を継承し、障がいのある人もない人も、誰もが分け隔てられることなく、「地域で自分らしく生きるため」「安心して納得できる生き方を求めて」、それを実現していくことができるまちづくりを進めます。

障がいのある人を取り巻く環境は、複雑化、多様化しています。誰もが生まれてからずっと安心して暮らし続けられるよう、ライフステージに応じた一貫した支援体制を充実するとともに、災害等緊急時の備え、バリアのない環境づくりを進める必要があります。

また、道路や施設等の整備だけでなく、こころのバリアフリーも実現し、障がいのある人ない人、団体、地域などあらゆる主体が支え合えるようなまちづくりを進めます。

— 逗子市総合計画（2015～2038）から抜粋 —

評価シート

所管課：療育教育総合センター

目標【2022年度】
(仮称)療育・教育の総合センターで実施する相談及び障害児通所支援を利用したことのある子どもの、市内の18歳までの子どもに対する割合が9.5パーセントになっている。

令和元年度の取り組み

関係する事業名	療育推進事業
事業内容	<p>目的：障がいのある子どもや発達に心配のある子ども及びその保護者が、生涯安心して地域で生活できるよう支援する。</p> <p>手段：子どもの人権を尊重し、一人ひとりの子どもが現在及び将来ともにその持てる力を十分に発揮した生活が営めるよう教育と連携した総合的な支援を行う。相談機能を充実させ、学齢期も含めたワンストップ相談受付ができる体制を整え、保護者や支援者の幅広いニーズに応じる。新たな療育体制を構築し、専門性を向上するとともに、教育との連携を強化し、就学後も継続した支援を行う。</p> <p>内容：療育相談員・専門員等報酬 32,601,640円 光熱水費 2,477,460円 センター療育部門委託料 54,893,361円 送迎車両賃借料 1,632,960円</p> <p style="text-align: right;">ほか</p>
実績	<p>○療育教育総合センターの運営</p> <p>【相談体制の充実】</p> <p>*相談件数 6,388件 相談者数 532人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民向け公開講座の開催 (10月31日実施/16名参加) ・ひなたワークショップの開催 (2回実施:6名参加) ・ペアレントプログラムの開催 (全4回連続講座:実人数16名)

評価シート

	<ul style="list-style-type: none"> • 保育所、幼稚園等への定期巡回相談による支援者支援 (延べ36回/対象児実人数134名/延べ数202名) • 療育相談員、専門員等の配置 (SW2名、学齢期担当相談員1名、心理士3名、言語聴覚士4名、理学療法士1名、作業療法士3名、保育士2名、保健師1名、嘱託医3名) 【教育等関係機関との連携】 • 学校への定期巡回相談による支援者支援 (延べ15回/対象児実人数34名) • 支援シート作成会議への参加 (延べ1回/対象児実人数12名) • 学齢期担当相談員による相談における各学校との情報共有のほか、就学相談説明会の実施及び校長・教頭会議、教育相談CD担当者会議、特別支援学級担当者会議、幼保小連携会議等への出席 【療育機能の充実】 • 児童発達支援事業の実施 (実人数44名/延べ1,232回利用) • 放課後等デイサービスの実施 (実人数47名/延べ627回利用) <p>○市内の18歳までのセンターにおける相談・サービス等利用者の割合 11.7%</p>
自己評価	<p>市民向け公開講座やひなたワークショップ等に加えて、今年度は新たな取り組みとして「ペアレントプログラム」を実施し、保護者支援の充実を図ることができた。また、保育所や幼稚園、学校等への定期巡回による支援者支援も定着してきており、そこから利用につながるケースも増えてきている。</p> <p>これらの取り組みにより、センター利用者の割合は順調に推移しており、当初の目標値を上回ることができた。</p>

評価シート

外部有識者の意見	実績値から見て、順調に進捗していると評価する。「教育と福祉の連携」の成果については、具体的にどのようなものになるのか、今後わかりやすく示していただけたらと考える。
今後の課題と取り組みの方向性	現在の支援体制は継続しつつ、保護者や社会のニーズに合わせてプログラムの充実化を図っていく。また、教育と福祉の連携の成果については、わかりやすい指標が設定できないか検討していく。

評価シート

所管課：療育教育総合センター

目標【2022年度】
（仮称）療育・教育の総合センターにおいて、障がいのある子ども、発達に心配のある子ども（0歳～18歳）に対してライフステージに応じた継続的な支援が行われている。

令和元年度の取り組み

関係する事業名	療育推進事業
事業内容	<p>目的：障がいのある子どもや発達に心配のある子ども及びその保護者が、生涯安心して地域で生活できるよう支援する。</p> <p>手段：子どもの人権を尊重し、一人ひとりの子どもが現在及び将来ともにその持てる力を十分に発揮した生活が営めるよう教育と連携した総合的な支援を行う。相談機能を充実させ、学齢期も含めたワンストップ相談受付ができる体制を整え、保護者や支援者の幅広いニーズに応じる。新たな療育体制を構築し、専門性を向上するとともに、教育との連携を強化し、就学後も継続した支援を行う。</p> <p>内容：療育相談員・専門員等報酬 32,601,640円 光熱水費 2,477,460円 センター療育部門委託料 54,893,361円 送迎車両賃借料 1,632,960円</p> <p style="text-align: right;">ほか</p>
実績	<p>○療育教育総合センターの運営</p> <p>【相談体制の充実】</p> <p>*相談件数 6,388件 相談者数 532人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民向け公開講座の開催 （10月31日実施／16名参加） ・ひなたワークショップの開催 （2回実施：6名参加） ・ペアレントプログラムの開催 （全4回連続講座：実人数16名） ・保育所、幼稚園等への定期巡回相談による支援者支援 （延べ36回／対象児実人数134名／延べ数202名）

評価シート

	<ul style="list-style-type: none"> •療育相談員、専門員等の配置 （SW2名、学齢期担当相談員1名、心理士3名、言語聴覚士4名、理学療法士1名、作業療法士3名、保育士2名、保健師1名、嘱託医3名） 【教育等関係機関との連携】 •学校への定期巡回相談による支援者支援 （延べ15回／対象児実人数34名） •支援シート作成会議への参加 （延べ1回／対象児実人数12名） •学齢期担当相談員による相談における各学校との情報共有のほか、就学相談説明会の実施及び校長・教頭会議、教育相談CD担当者会議、特別支援学級担当者会議、幼保小連携会議等への出席 【療育機能の充実】 •児童発達支援事業の実施 （実人数44名／延べ1,232回利用） •放課後等デイサービスの実施 （実人数47名／延べ627回利用） <p>○市内の18歳までのセンターにおける相談・サービス等利用者の割合 11.7%</p>
<p>自己評価</p>	<p>市民向け公開講座やひなたワークショップ等に加えて、今年度は新たな取り組みとして「ペアレントプログラム」を実施し、保護者支援の充実を図ることができた。また、保育所や幼稚園、学校等への定期巡回による支援者支援も定着してきており、センター利用者に対するライフステージに応じた継続的な支援を推進することができた。</p>
<p>外部有識者の意見</p>	<p>実績値から見て、順調に進捗していると評価する。「教育と福祉の連携」の成果については、具体的にどのようなものになるのか、今後わかりやすく示していただけたらと考える。</p>

評価シート

今後の課題と 取り組みの方 向性	現在の支援体制は継続しつつ、保護者や社会のニーズに合わせてプログラムの充実化を図っていく。また、教育と福祉の連携の成果については、わかりやすい指標が設定できないか検討していく。
------------------------	--

6 誰もが心豊かに子育てできるまち

（基本構想の取り組みの方向）

急速な少子化の進行や、家庭や地域を取り巻く環境の変化、地域とのつながりの希薄化の中で、心豊かに子育てをするためには、子育てに対する不安や孤立感を減らし、子育ての喜びを実感できることが必要です。子育てを親が主体的に行えるよう、まち全体で子育てを応援し、住みなれた地域で安心して子どもを生み育てることのできる総合的な支援体制の充実をめざします。

さらに、家庭環境や雇用形態の多様化などを踏まえ、家庭と地域や学校等が相互に協力し、まちを生かした豊かな遊びと学びの環境を整え、すべての子どもが愛され信頼されることを通じて、次世代を担う子どもたちが、心身共にたくましく生きる力と豊かな人間関係を培うことができるよう、地域と共に育むまちづくりをめざします。

— 逗子市総合計画（2015～2038）から抜粋 —

評価シート

所管課：子育て支援課

目標【2022年度】

子育てに関するポータルサイトのアクセス数が、2018年度の年間アクセス数の20パーセント増となっている。

令和元年度の取り組み

関係する事業名	子育て運営事業
事業内容	子育て中の保護者からの相談や、地域の子育て家庭に対する育児支援を行うため、桜山に施設を設置し、アドバイザーを配置。フリースペースとして子どもを遊ばせる中からの相談、必要に応じた個別相談を電話・来所・訪問の方法で行う他、巡回相談を実施する。
実績	<p>○子育てポータルサイト「えがお」のアクセス数169,784件/年（14,148件/月）</p> <p>○子育てネットワーク会議の開催（年1回）3月開催予定の会議は、新型コロナ感染拡大防止の観点から中止。</p> <p>○子育てポータルサイト「えがお」と子育て応援紙「陽だまり」の連動企画を行ったが、3月以降新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から取材活動を休止している。</p> <p>○3月から新型コロナウイルスの影響で子育て支援センターの「子育てひろば」を閉所していたが、えがおレポートやえがおFacebookを活用し情報発信を行った。</p>
自己評価	<p>えがおレポートの掲載件数はレポーターの増員により昨年度より9件多い20件のレポートを掲載できた。また、「陽だまり」編集スタッフとの兼任者が多いため、「えがお」と「陽だまり」の連動企画が実現した。</p> <p>しかし、昨年度に比べポータルサイトのアクセス数が17%減となっている。</p>

評価シート

外部有識者の意見	<p>未就園児の親子にとって、日常の楽しみや情報は自分で探し出さないと何も得られない。そんな時に「えがお」は頼りになる存在であろう。えがおレポートは手軽に読めやすく、いい息抜き、新しい視点を与えてくれる。「陽だまり」との連動企画の実現も制作体制に厚み・広がりが出たという点で評価できる。</p> <p>反面、スマホ表示のトップページの項目がわかり難い。コロナ禍の中、確かな公式情報を発信し「頼りになる存在」として徐々にアクセス数も回復上昇するのではないか。</p>
今後の課題と取り組みの方向性	<p>ポータルサイトのアクセス数の減の原因を分析し、さらに子育て世代に必要な魅力あるコンテンツを提供できるよう工夫していく。</p>

評価シート

所管課：子育て支援課

目標【2022年度】
逗子市体験学習施設「スマイル」の主催講座の年間延べ参加者数が2,000人、年間延べ利用者数が60,000人になっている。

令和元年度の取り組み

関係する事業名	体験学習施設講座等事業
事業内容	体験学習施設における講座等のイベントの実施並びに貸館業務の実施。
実績	<p>【延べ利用者】33,758人（2018年度33,780人）</p> <p>【主な内訳】</p> <p>主催講座20講座実施 受講者数延べ1,192人</p> <p>体験学習施設利用者数 児童青少年10,250人 大人4,845人 スマイルまつり 3,800人</p> <p>池子ほっとスペース 利用者数 12,439人</p>
自己評価	<p>メールマガジンも利用し、講座やイベントの周知をしているが、講座の受講者は前年度より減少している。</p> <p>スマイルまつり（ハロウィン）が定着し、来場者が増えていることなどもあり、体験学習施設年間延べ利用者は、3月が閉館中だったにもかかわらず、前年度より増加しているが、目標には至っていない。</p>
外部有識者の意見	<p>子どもの利用者が昨年度増えたのは良かった。現在は新型コロナウイルスが猛威を奮って、思うようにいかないと思うが、逗子市では唯一と言える青少年、児童・生徒を対象にした公共施設なので、粘り強く事業展開をしてほしいと思う。</p> <p>講座の受講者が減ったようだが、一講座あたり約60人の受講者なら、悪くないと思う。</p>

評価シート

今後の課題と 取り組みの方 向性	子どもたちを引き付ける講座の内容を更に工夫し、充実 させていきたい。
------------------------	---------------------------------------

評価シート

所管課：子育て支援課

目標【2022年度】

「逗子市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査」における子育ての環境や支援の満足度が25 パーセントになっている。

※「逗子市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査」は、5年に一度実施することになっており、令和元年度は実施しなかった。直近である平成 30 年度実施の調査では、子育ての環境や支援の満足度が24.15 パーセントであった。

評価シート

所管課：保育課

目標【2022年度】
教育・保育施設等を希望する人すべてが、希望する施設を利用できる。

令和元年度の取り組み

関係する事業名	保育所入所措置事業 地域型給付事業 幼児教育・保育無償化給付事業
事業内容	市内の幼児教育・保育施設に対し受入児童の年齢や人数に応じた給付費を支払う。 経済的負担を軽減することにより希望する施設を利用できるように無償化による給付を実施。
実績	施設型給付事業 ・給付額 845,067,179円 ・給付対象人数 780人 地域型給付事業 ・給付額 130,912,970円 ・給付対象人数 54人 幼児教育・保育無償化給付事業（令和元年10月から） ・給付額 110,478,572円 ・給付対象人数 675人
自己評価	保育施設に関しては、待機児童が発生する状況にあり、保育所以外の利用も検討するよう相談に応じ、できる限り希望に沿うようにしたが、待機児童の解消には至っていない。 幼児教育・保育の無償化が始まったことにより、経済的な理由に左右されることなく希望する施設を選択できるようになった。 施設の種別が多様化し、保護者が受けさせたい教育を選べるようになった。

評価シート

外部有識者の意見	幼児教育の質が向上し、保育所等の待機児童の解消を望む。
今後の課題と取り組みの方向性	教育・保育施設等の利用について、施設の多様化、保護者のニーズの多様化に対し利用者に寄り添いながら柔軟に対応していく。

目標【2022年度】

ほっとスペースの年間延べ利用者数が26,000人になっている。

令和元年度の取り組み

関係する事業名	ほっとスペースの運営 (ふれあいスクール事業)
事業内容	乳幼児の子育てを支援することを目的としてほっとスペース事業を実施。
実績	<p>◎開設日数</p> <p>82日(逗子) 62日(久木) 121日(小坪) 127日(沼間) 264日(池子) 計 654日</p> <p>◎延べ利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・逗子ほっとスペース 1,742人 ・久木ほっとスペース 613人 ・小坪ほっとスペース 1,034人 ・沼間ほっとスペース 1,967人 ・池子ほっとスペース 12,439人 <p>計 17,795人(2018年度 19,740人)</p>
自己評価	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で2月から利用者が減少し、3月は施設を休止したことを考慮すると、前年度と同程度の利用者数となっていることは、一定の評価に値すると思うが、目標利用者数までは開きがある。</p> <p>施設の情報は、広報ずしやホームページ、メールマガジンなどで、発信しており、新たな利用者の確保するため、利用ニーズの掘り起こしに取り組んでいく</p>

<p>外部有識者の意見</p>	<p>子育て支援センター・ほっとスペースは「安心できるスタッフ」がいることが最大の魅力。オンラインの世界に浸っていると思われがちな子育て世帯だが、リアルな人とのつながりも求めている。制限が続く中、物品の消毒や予約の管理等運営は大変だと思うが、利用できる環境を地道に提供し続けてほしい。</p>
<p>今後の課題と取り組みの方向性</p>	<p>逗子や久木においては、ふれあいスクール事業との併任職員や併用の部屋といった、サービス提供体制上の制約があり、今後はふれあいスクールや学童保育のサービス提供体制の検討にも取り組んでいく。</p>

7 教育委員会への意見及び助言

1. 文化を新たに創造するまち

アートフェスティバル、文化プラザホールはそれぞれの数値目標に及ばないものの、それに近い実績であることから当初目標はほぼ達成できていると評価できる。また、ホール貸し館利用者の満足度及び入場者数は数値目標を上回る数になっている。したがって、これら施設の運営については引き続き充実を目指していくことが大切になる。

2. スポーツを楽しむまち

スポーツの祭典は参加数 5000 人の目標値に対して約 2500 人程度に留まっているが、前年度の実績 1731 人であることから数値目標が現実離れしていた可能性がある。スポーツ実施率は 66.7%の目標に対して 54.6%に留まっているが、これも数値目標の設定に無理があったと言える。これらについて 2022 年まで達成させるための工夫が求められるであろう。

スポーツクラブ登録者数は 1000 人の目標に対して 614 人であり目標を達成していないが、このことよりも問題なのはここ数年減少傾向にあることである。

以上の点に関しては、そもそも数値目標が高すぎていると思われるが、その目標設定の根拠の再検討が必要だと思われる。

3. 学校教育の充実したまち

「お互いを認め合える学級づくり」は評価の指標が曖昧なため評価が困難であるが、その点は別にすれば、いろいろな努力と工夫がなされている様子がうかがわれる。自己チェックリストの取組は目標値を上回るなど教員間に浸透しているようである。この種の取組は負担感があるとは言え有効な施策であることから、今後も引き続き継続されたい。

支援シートの作成は目標を達成し、また有効に活用されている様子が分かる。また、シート作成過程で多様な人的資源の活用がなされた点は高く評価できる。

小学校では各種情報機器が有効に活用されているが、中学校の場合には環境整備や教員の活用姿勢に何らかの課題が残されていると言える。

全体的に、目標が具体化されていないため、評価が困難だと思わ

れるので、具体的な評価の指標を設定するとよい。

4. 子どもも大人も共につながり成長していくまち

サイドエージ講座には企画段階で受講者が参画しているようだが、このことは生涯学習の取組や考え方が市民間に浸透している証だと言えよう。他市で取り組まれているような企画員制度などの実施も検討されたい。

社会教育講座等アンケート結果は目標値をすべて上回った点は評価できる。ただ、未回答者の意識が気になるところである。なお、社会教育においては学習課題を「必要課題」と「要求課題」に分けるが、人権教育などの「必要課題」を魅力ある事業にする工夫をさらに検討されたい。

家庭教育講座は、目標値の5回実施を上回った点は評価できる。他市等では当初予定よりも下回ることが珍しくないからである。家庭教育事業に関しては未参加層の取り込みが古くから課題視されている。そこで、未参加層をどう取り組むかの検討が重要になる。

指定文化財については増加を目標とするだけでなく、いかに確実に保護するかが重要課題になる。したがって、その保護に要する予算確保が検討されるとよい。古墳の整備と公開は予定通りに実施され、目標が達成されたが、今後はPRの充実が課題になるだろう。

図書館は数値目標をはるかに達成していることは評価できる。ただ、図書展示に限られているので、実質的な利用数である貸出等についても数値目標化することが望まれる。

以上については、各種事業の目標と実績が示されているが、子どもと大人が「つながる」という視点が見出されにくい。したがって、「つなげる」ことを目的とした施策が求められるだろう。

5. 障がい者が安心して自分らしく暮らし続けるまち

総合センター利用率の数値目標は達成されたが、この数値は18歳以下の全体数比であるから、高いことが望ましいとは言えない。むしろ、事業の実施状況や多様性などを見ると、様々な工夫がなされていることが理解できる。今後、事業のさらなる充実を期待したいところである。

子どもに対するライフステージに応じた支援については、スタッフの配置や連携事業の取組など幅広く支援が実施されていると言える。

しかしながら、ノマライゼーションに関わる直接の取組が見えてこない感じがする。健常者と障がいのある人・子が交流できる場と機会をつくることも課題になると思われる。

6. 誰もが心豊かに子育てできるまち

子育てポータルサイトについては、アクセス数が減少している点は気になるが、同種サイトの多様化などが影響しているかも知れない。

スマイル主催講座は、参加者数及び施設利用者数は目標値にはるかに届かない実績で、2022年度までにも達成困難な実態にある。これは目標値設定が高すぎたためだと考えられる。講座受講者数の減少については、国レベルの調査(文部科学省社会教育調査)でも年度によって上下する傾向にあり、さほど気にする必要は無いだろう。増加を期待するよりも、未参加層をいかに取り組むかが課題になる。

待機児童の解消は短期的に達成することが難しい課題であるが、施設の多様化によって保護者が教育を選択可能になった点は評価できる。このことが子育て支援の満足度につながったと解せられる。

全体的見て、それぞれの施策に「まちづくり」という視点をもっと明確に打ち出すとよいだろう。

1 文化を新たに創造するまち

○ 文化活動振興事業について

・企画・運営における組織の仕組み作りが構築されつつあることは、継続性にもつながり評価できる。メンバーにとどまらず、多くの方に興味・関心を持っていただき、参加につなげるための方法の検討も期待したい。

○ 文化プラザホールの維持管理事業について

- ・事業間連携を実施したことにより、ホール来場につながったことは評価できる。
- ・アウトリーチ活動を実施したことは、幅広い市民に対し文化プラザホールを知っていただく機会にもつながると考えられる。
- ・貸館利用者満足度は微減だが、要望をくみ施設の充実を図ったこと等によって今後の満足度の変化に期待をしたい。
- ・ホールへの入場者増に向けて、ニーズ調査・分析等を実施し今後の運営に生かしていただきたい。

2 スポーツを楽しむまち

○スポーツ推進事業

- ・現状に合ったスポーツの祭典実施に期待したい。(コロナ禍における実施)
- ・年齢層によっては参加が少ないとのことだが、すべての市民が気軽にスポーツに親しむという目的ならば、その原因を探ることも必要と考える。
- ・アリーナと市役所との連携による市民の健康づくりをサポートする体制は評価できる。
- ・Zushi パーソナルトレーニングプログラムについては、市民周知に努めていただきたい。

○逗子市体育協会の自主事業(うみかぜクラブ)

- ・取り組みに工夫がみられる。登録者減少の原因を検討し改善につなげていただきたい。

3 学校教育の充実したまち

○ 教員の授業力・学級経営力・児童指導力向上重点事業

- ・いじめなどの未然防止・早期発見・早期解決等へ組織として取り組もうとする姿勢は評価できる。今後は、これらの取り組みが組織として実際に機能し、教育現場で生かされているのかを調査し、効果の有無及び課

題等を検討していくことも必要かと思われる。

- ・構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングの活用は方法の一つとして有効だと思われる。すべての教員が熟知し、子どもの成長状況等に応じていつでも提案できるようになってほしい。
- ・いじめへの対応や支援教育等への理解と対応方法等については、研修などを通して学び理解することも必要である。学んだことが教育の現場でどの様に活かされているのか実態を調査し、すべての子どもにとって充実した学校づくりを目指し、今後につなげていってほしい。
- 教育相談・就学支援事業
 - ・支援シートの作成は児童・生徒に対し個々に応じて一貫した支援を行う為に必要だと思われる。シートを作成するためには、保護者の理解と承諾も必要であろう。
 - ・機関間の連携は、児童・生徒をサポートするにあたり大事である。
- 教育用コンピュータ維持管理事業
 - ・教育現場におけるコンピュータの使用においては、コンピュータ使用における教育活動が子どもの学習意欲に及ぼす長所・短所を十分把握し、全ての児童生徒にとって意義ある活用となるよう願う。

4. 子どもも大人も共につながり成長していくまち

- 各種講座事業
 - ・参加者のニーズに応じた講座の開講により、多くの受講生を集めることができている。結果、受講生が企画側としてその後も講座にかかわり、活躍の場が広がることにもつながり、プラスのスパイラルを作っていると考えられる。
- 人権教育等事業・家庭教育講座事業
 - ・時代背景によって少しずつ変化をしていくが、現状にふさわしい事業内容を逐次検討し引き続き取り組んでほしい。
- 文化財保護委員会経費
 - ・文化財の公開に期待したい。
- 名越切通維持管理事業・名越切通整備事業・古墳整備事業
 - ・訪れた者が安心して利用できるよう、危険箇所への安全対策をお願いしたい。
- 池子遺跡群保護事業
 - ・池子遺跡群資料館が今後充実し、来館者が増えていくよう今後の取り組みに期待したい。

○ 図書館活動事業

- ・取り組みに対し、努力と工夫が窺える。今後も市民のニーズに応じた魅力ある図書館づくりを期待する。

5. 障がい者が安心して自分らしく暮らし続けられるまち

○ 療育推進事業

- ・専門職の人材の充実及び質の向上を図られたい。
- ・ペアレントプログラムを実施するにあたっては、プログラム終了後における調査を実施し、プログラム受講の効果検討を実施することが望ましい。

6. 誰もが心豊かに子育てできるまち

○ 子育て運営事業

- ・パソコンからもスマホからも気軽にアクセスできるような画面等の工夫をお願いしたい。

○ 体験学習施設講座事業

- ・青少年・児童・生徒を対象とした唯一の施設であり、子どもの為にも、ニーズに応じた活動を継続して行ってほしい。

○ 保育所入所措置事業等

- ・待機児童については、人口動向等も含め見通しをもって対策を考えていただきたい。同時に、保育・教育の質の担保も引き続き行っていただきたい。

○ ほっとスペースの運営

- ・乳幼児への子育て支援では、「家庭の中で孤立させない」という視点が大事であるだろう。子育て中の親子がほっとスペースに行きたくなる宣伝方法等も工夫されたい。

逗子市教育委員会 教育部教育総務課

〒249-8686

神奈川県逗子市逗子5-2-16

TEL046-873-1111

FAX046-872-3115

E-mail kyouiku@city.zushi.lg.jp